

南国高知市で昆虫少年時代を過ごしたため、標高 1400m の梶が森まで遠征して山頂部で上昇気流によって吹き上がってきたオオミドリシジミを捕らえたのがゼフィルス初体験で、アカシジミについては越知町の横倉山での採集記録があるだけで実際にみたことはないまま。大学生となって過ごした京都でのチョウタイムで、夏の行事である大文字焼の際に同時に「妙法」という文字で火入れがされる、その山斜面で初めてアカシジミとミズイロオナガシジミをみたのだが、図鑑でのみ知るアカシジミが意外に薄いオレンジ色でしかないことを知った瞬間でもあった。

社会人となって兵庫県高砂市に住み、里山環境が残る加古川市近郊でチョウタイムをとるようになってから、コナラの樹が多い雑木林まわりでアカシジミを観察できることを知り、2001年には三宮市街地で目撃されるような大発生もあって、その頃から写真記録をとり始めている。



June 3, 2014 梅雨入りの前に

九州地方が梅雨入りし、近畿もあすには梅雨入り宣言の可能性があるということでフィールドへ。まずはアカシジミに会いたくてコナラのある雑木林に行ってみる。いきなり車道へと飛び出すのは新鮮美しいヒオドシチョウだ。テングチョウも複数が車の動きと平行した低空飛行を見せる。アカシジミは午前中だと驚かさないと飛ばないため、枝葉を叩くとひらひらと緋色のチョウが飛び出して、まだ舞踏会の時間ではないのにとすぐ休む。撮影に好適な場所に移動してくれるまで我慢比べの末、何とか記録が撮れる。



May 25, 2015 アカシジミにも会えた

ヒメヒカゲの蛹を発見でき、いい気分です平荘湖周回道路沿いの林縁を走る。コナラの樹木が立ち並ぶ木陰が多いところで新鮮なヒオドシチョウとメスグロヒョウモンの♂が飛ぶが撮影モデルにはなってくれない。一方、路傍沿いの笹竹の葉上にじっととまって、夕刻からの舞踏会の準備をしているアカシジミは、何の抵抗もなく撮影モデルをつとめてくれる。



June 13, 2015 産卵シーンを記録

30年ぶりのキマダラルリツバメ発生を確認しに訪れた場所でアカシジミがコナラの休眠芽付近に産卵する様子をビデオ撮影記録。

